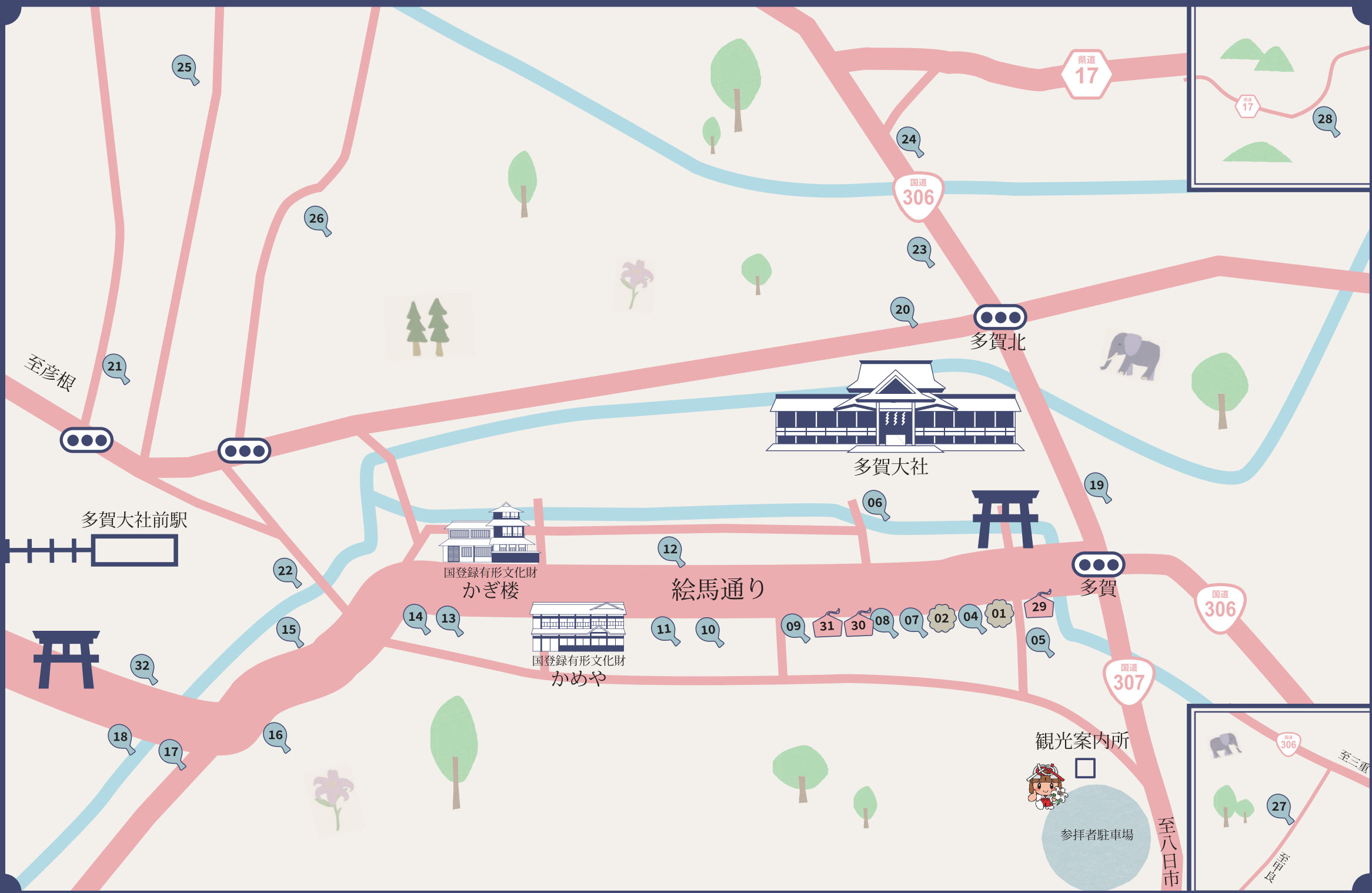


多賀・絵馬通り グルメ&おみやげ さんさくマップ



多賀の豆知識コーナー

糸切餅の三本線
由来はモンゴルの国旗！

鎌倉時代中期に、蒙古(今のモンゴル国)軍が博多に二回襲来したものの、台風で退散したことで有名な元寇。「神風のおかげ」と捉えた人々が団子を作り、蒙古軍の国旗の色にちなんで赤・青の三本線を書いた。「刃物を使わずに悪霊を断ち切る」平和の願いを込めて、弓のつるで切って神様にお供えしたのが今の糸切餅という。

「多賀大社のお多賀杓子」の秘密とは？

お多賀杓子とは、奈良時代の元正天皇がご飯と杓子のおかげで病から回復した話にちなんで、多賀大社の杓子。昔から杓子は、お米(稲魂)をすくって食べる道具として使われてきた。音が似ていることから、お多賀杓子が訛って「おたまじゃくし」の語が誕生したという。

ちなみに、多賀大社の神様は伊邪那岐命と伊邪那美命。二人は伊勢神宮の神様・天照大神の両親にあたる。

多賀町出身の歴史上の人物、井伊直弼の女ス・バイ・村山たか女の他にも！？

多賀町(多賀)出身の村山たか女は、NHK大河ドラマ「花の生涯」に登場する、井伊直弼が好意を寄せた女性。大老となった直弼が起こした安政の大獄で、京都にいる倒幕派の情報を江戸に送る役割を果たしたとされる。たか女に加えて近年、多賀町(佐目)出身とささやかれるのが、織田信長を本能寺の変で襲った明智光秀。二〇二〇年放送のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」で注目が集まる。生家があったという「十兵衛屋敷跡」も訪問可能。

